

科目：世界史

●問題冊子 3 ページ：① 問 2 (6)

(誤) d 13 世紀には,

(正) d フランスのアンジュー家の支配を経て,

●問題冊子 9 ページ：③ (11)

選択肢に正解として扱うことができるものが複数ありま
したので、そのいずれを選択した場合も得点を与えることといた
します。

以上

世 界 史

(問 題)

2025年度

〈2025 R 07190015 (世界史)〉

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～13ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) マーク欄にははっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	● 良い	○ 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	○ 悪い	○ 悪い

5. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
6. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。
7. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
8. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
9. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

1 ヨーロッパ世界では、社会一般の取り決めに際して、その最高権力者がトップ・ダウンでこれを命じるという方式と同時に、社会の構成メンバーが合議してこれを取り決めるという方式も存在した。このことは、現在の私たちの議会制民主主義の歴史を考えるうえでも、重要な視点を提供してくれる。これに関する以下の問1～3の文章を読み、下線部(1)～(13)に関する問いについて、a～dないしa～fの選択肢の中から答えを1つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

問1 古代のユーラシア大陸では、洋の東西を問わず、歴史時代に入ると「王」という専制的な支配者が現れることが多い。古代オリエント世界もその例に漏れない。東地中海世界に位置するギリシア⁽¹⁾では、王政に続いて各地に成立した都市国家において、貴族政を経て民主政が成立した。イタリア半島では、同様の過程を経た都市国家ローマ⁽²⁾が地中海沿岸地域全体を支配するようになると、皇帝が支配する帝国に変貌した。その過程で、民会という市民集会の伝統は衰退したが、元老院という有力者による合議制機関は長く存続した。

(1) この地域に存在した王国と民族について述べた次の文①と②の正誤の組合せとして、正しいものはどれか。

- ① 現在のボアズキョイを都として、アナトリアの大半を支配したヒッタイトは、鉄器や二輪の馬車を使用しつつ、メソポタミアやシリアにまで進出して、強勢を誇った。
- ② ヒッタイトと争った中王国時代のエジプトは、テーベを都として、中央集権化を押し進めた。
- | | |
|-----------|-----------|
| a ①－正 ②－正 | b ①－正 ②－誤 |
| c ①－誤 ②－正 | d ①－誤 ②－誤 |

(2) 古代ギリシアの民主政について、誤っている説明はどれか。

- a アテネの政治家ソロンが導入した財産政治は、一部の平民の政治参加に道を開く一方で、貴族中心の政体を維持するものでもあった。
- b クレイステネスは、それまでの血縁的な部族に代わって、地縁共同体であるデーモスを新たな行政単位とした。
- c ペリクレスにより、18歳以上のアテネの男性市民に民会への参加が認められた。
- d 民衆裁判所は、20歳以上の市民から抽選で選ばれた陪審員によって構成された。

(3) ローマの政治と統治の体制について述べた次の文①と②の正誤の組合せとして、正しいものはどれか。

- ① ホルテンシウス法によって、唯一の民会である平民会の決議がローマ全体の法となった。
- ② ローマ帝国では、支配地域を植民市と属州に区別する分割統治の体制が実施された。
- | | |
|-----------|-----------|
| a ①－正 ②－正 | b ①－正 ②－誤 |
| c ①－誤 ②－正 | d ①－誤 ②－誤 |

問2 カロリング朝フランク王国以後の中世ヨーロッパの諸王国では、フランス、⁽⁴⁾北欧、⁽⁵⁾イベリア半島などの各地で、国王、皇帝や有力諸侯による君主政が営まれた。しかし、君主が弱体だったドイツ⁽⁶⁾（神聖ローマ帝国⁽⁷⁾）では、1356年の金印勅書によって、7人の選帝侯の多数決によって次の君主が選ばれることとなったが、これは合議制的な君主の選出方法である。また、12～13世紀以降、時代差はあるものの多くの君主政国家において、身分制議会と総称される代表合議制の集會が開催されるようになり、その後の議会制を準備することとなった。

他方、中世ヨーロッパの自治都市では、一般に都市参事会と呼ばれる、有力市民による少数寡頭政の自治政府が営まれた。これもまた一種の合議制による政治体制である。イタリア半島⁽⁸⁾では、中部と北部を中心にして自治都市が都市国家にまで発展することが多かった。

さらにローマ＝カトリック教会でも、教皇の権力が13世紀を頂点として強化された一方で、教会会議という、聖職者の合議制的集會も、中世を通じてヨーロッパ各地でさまざまな規模で開かれていた。公会議とは、このような教会会議のうち、カトリック世界全体の聖職者代表が集まる集會である。

(4) フランス王国について述べた次の文①～③が、年代の古いものから順に正しく配列されているものはどれか。

- ① カペー朝が断絶し、ヴァロワ朝が成立した。
 - ② 最初の全国三部会が開かれた。
 - ③ トゥールーズで、ドミニコ修道会が創設された。
- | | |
|---------|---------|
| a ①→②→③ | b ①→③→② |
| c ②→①→③ | d ②→③→① |
| e ③→①→② | f ③→②→① |

(5) 北欧について述べた次の文①と②の正誤の組合せとして、正しいものはどれか。

- ① デンマーク系ヴァイキングは、スラヴ人地域に進出して、ノヴゴロド国を建てた。
 - ② スウェーデンは、13世紀末から16世紀前半までデンマークを中心とする同君連合の下に置かれていた。
- | | |
|-----------|-----------|
| a ①－正 ②－正 | b ①－正 ②－誤 |
| c ①－誤 ②－正 | d ①－誤 ②－誤 |

(6) イベリア半島の諸王国について、正しい説明はどれか。

- a 後ウマイヤ朝の滅亡後、小君主国が分立していたイベリア半島にムワッヒド朝が進出した。
- b ナスル朝が支配するトレドを中心として、12世紀ルネサンスと呼ばれる文化運動が起こった。
- c ポルトガル王国は、アラゴン王国から独立して成立した。
- d 13世紀には、アラゴン王家がシチリア島も支配下に収めた。

(7) ドイツ（神聖ローマ帝国）について、正しい説明はどれか。

- a カノッサの屈辱（カノッサ事件）ののち、教皇と和解したハインリヒ4世は、ヴォルムス協約を結んだ。
- b 金印勅書を発布した皇帝カール4世は、ベーメン国王として、クラクフ大学を創設した。
- c 神聖ローマ帝国は、15世紀までにデンマーク王国を含む領域に拡大した。
- d 1241年、ドイツとポーランドの諸勢力は、ポーランドで、西進してきたモンゴル軍に敗れた。

(8) イタリア半島の事柄について述べた次の文①と②の正誤の組合せとして、正しいものはどれか。

① 神聖ローマ皇帝のイタリア介入（イタリア政策）に対抗して、ジェノヴァを盟主とするロンバルディア同盟が結成された。

② ボッカチオ（ボッカッチョ）の著した『デカメロン』は、黒死病に見舞われたフィレンツェを舞台背景としている。

- | | | | | | |
|---|-----|-----|---|-----|-----|
| a | ①－正 | ②－正 | b | ①－正 | ②－誤 |
| c | ①－誤 | ②－正 | d | ①－誤 | ②－誤 |

(9) ローマ＝カトリック教会について、誤っている説明はどれか。

- a コンスタンツ公会議では、教会大分裂が解決される一方、フスが処刑されて、その後のベーメンの反カトリック運動を引き起こすこととなった。
- b 尖頭アーチと高い尖塔を特徴とするゴシック式の教会建築は、農村部に多く建てられた。
- c 第4回十字軍は、教皇インノケンティウス3世の提唱で始まった。
- d 1545年から始まったトリエント公会議では、対抗宗教改革とも呼ばれるカトリック教会の改革が目指された。

問3 絶対王政期になっても、イギリスでは、国王の統治には議会の同意が必要であるという伝統が続いた。フランス⁽¹⁰⁾では、強力な王権の支配下にあつて議会が開かれな時期が長く続いたが、フランス革命期に再び議会が開かれるようになり、その過程で、中世の身分制議会から近代議会へ変化していった。他方、アメリカ⁽¹²⁾では、独立を経て、連邦議会が三権分立の一翼を担った。しかし、普通選挙に基づく議会制民主主義が完成に近づくためには、その後⁽¹³⁾も長い時間を要することとなる。

(10) イギリスの2つの革命に関する以下の事柄を古い方から時代順に並べた場合に、3番目に来るものはどれか。

- | | |
|-------------------|--------------------------|
| a 王政復古 | b 人身保護法 |
| c ホブズ『リヴァイアサン』の刊行 | d ロック『統治二論』（『市民政府二論』）の刊行 |

(11) フランスについて、正しい説明はどれか。

- a フロンドの乱の結果、王権強化政策を進めたマザランは失脚した。
- b ルイ14世の子であるフェリペ5世の即位をめぐって、スペイン継承戦争が起こった。
- c モンテスキューは、『法の精神』で王権の制限を主張した。
- d 総裁政府のもとで、ナポレオンは実質的な第一人者となった。

(12) アメリカの議会と代表制について述べた次の文①と②の正誤の組合せとして、正しいものはどれか。

① アメリカ独立前の13植民地は、それぞれ独立した植民地議会を持っていた。

② 1774年と1775年の大陸会議には、13植民地だけでなく、ケベックの代表も参加した。

- | | | | | | |
|---|-----|-----|---|-----|-----|
| a | ①－正 | ②－正 | b | ①－正 | ②－誤 |
| c | ①－誤 | ②－正 | d | ①－誤 | ②－誤 |

(13) 議会と選挙について、誤っている説明はどれか。

- a フランスでは、1791年憲法にもとづいて一院制の立法議会が発足した。
- b 同じくフランスでは、国民公会発足時に実施された男性普通選挙がそれ以後定着した。
- c 第一次世界大戦は、複数の欧米諸国で女性参政権が導入される契機となった。
- d 日本では、1925年に満25歳以上の男性に選挙権が与えられた。

- 2 脱植民地化について述べた以下の文章を読み、下線部(1)～(12)に関する問いについて、a～dの選択肢の中から答えを1つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

1960年、イギリスのアトリー元首相はある演説の中で、「外部からの圧力もなく、支配することの重荷に嫌気がさしたわけでもないのに、自ら進んで各地の臣民に対する支配権を手放し、彼らに自由を与えた国がある。イギリスだ」と述べた。この評価は、世界各地に広がるイギリスの植民地の独立において、どの程度当てはまるだろうか。

第一次世界大戦で掲げられた民族自決の理念は、アジア・アフリカ地域には適用されなかった。ヴェルサイユ条約によって、各地のドイツの植民地や租借地は再分配された。旧オスマン帝国のアラブ諸州は、戦勝国であるイギリスとフランスの委任統治下におかれた。その根拠となったのが国際連盟規約第22条である。その後、両大戦間期に起きた植民地支配に対する抵抗や抗議は抑圧された。

第二次世界大戦で植民地が被った被害は甚大であった。連合国支配地域か枢軸国支配地域かを問わず、戦争目的で原材料の生産が強化され、労働が搾取された。食糧徴発は飢饉を招き、多数の死者を出した。戦闘員として従軍もしたが、そうした経験により、反植民地運動に加わる者も出てきた。アメリカのオバマ元大統領の祖父もその一人である。インドでは、戦争終結後の自治を約束されたにもかかわらず、1942年、「インドを立ち去れ」運動が宣言された。その前年に発表されたのが、大西洋憲章である。それは、

ものであったが、ガンディーが批判したように、特に戦後の実態を見るならば空虚に響いた。戦後に設立された国際連合は、委任統治に代わるものとして信託統治制度を設けた。

1950年代から60年代前半にかけて、イギリスは自らの統治への抵抗に対し、鎮圧作戦を各地で実施した。1956年には、スエズ運河の国有化を宣言したエジプトに対し、フランスと共同で侵攻した。他方、1960年、イギリスの当時のマクミラン首相は、南アフリカ議会で行った演説で、植民地に独立を認めるときが来たと述べた。保守党の政策転換であったが、その背景には、アフリカにおけるソ連の影響拡大への警戒と、アメリカによる市場開放圧力があつた。

- (1) アトリー首相について、誤っている説明はどれか。
- a 第二次世界大戦後、福祉政策の充実を図り、重要産業を国有化した。
 - b ポツダムで、トルーマンやスターリンと戦後処理について討議した。
 - c アトリー政権は、マラヤ連邦やカンボジアの完全独立を認めた。
 - d パレスティナ問題の解決を国際連合に委ねた。
- (2) 第一次世界大戦中の出来事について述べた次の文を古いほうから時代順にならべた場合、3番目にくるのはどれか。
- a アメリカが参戦した。
 - b イタリアがオーストリアに宣戦布告した。
 - c ドイツが無制限潜水艦作戦を開始した。
 - d 日本が日英同盟を根拠に参戦した。
- (3) 第一次世界大戦中に民族自決を提唱したとされるアメリカ大統領について、正しい説明はどれか。
- a キューバを保護国化した。
 - b 中国の鉄道敷設や中米への投資による市場開拓を進めた。
 - c アメリカ民主主義の道義的優位を説く「宣教師外交」を推進した。
 - d スペインとの戦争を開始した。

(4) ドイツの植民地や租借地について述べた次の文①と②の正誤の組合せとして、正しいものはどれか。

- ① 19世紀半ば以降、ドイツは、メラネシアの一部とミクロネシアの諸島を獲得した。
② 第一次世界大戦下で、日本は、青島と済南を結ぶ鉄道を占領した。
- a ①－正 ②－正 b ①－正 ②－誤
c ①－誤 ②－正 d ①－誤 ②－誤

(5) フランスの植民地や関連する政策について、誤っている説明はどれか。

- a 砂糖やコーヒーの生産地であるサン・ドマングで奴隷蜂起が起こり、独立運動へと発展した。
b 19世紀末、マダガスカルではフランスの攻撃を受けて、王国が滅亡した。
c フロリダがアメリカに売却された。
d ラオスがフランス領インドシナ連邦に編入された。

(6) 第二次世界大戦期の出来事について、誤っている説明はどれか。

- a アイゼンハワー指揮下の連合軍が、ノルマンディーに上陸し、パリを解放した。
b アメリカ合衆国、イギリス、中国の首脳がカイロ会談で、対独処理方針で合意した。
c アメリカ合衆国は、武器貸与法にもとづいてソ連に武器・軍需品を送った。
d フランスのド＝ゴールが、ロンドンに亡命政府（自由フランス政府）をつくった。

(7) アメリカの歴代の大統領について、誤っている説明はどれか。

- a アイゼンハワーは、国連総会で原子力平和利用に携わる国際機関の設立を提唱した。
b カーターは、パナマ運河をパナマに返還する条約を成立させた。
c ジャクソンは、土地の売却に応じない先住民を保留地に強制移住させる政策をとった。
d レーガンは、1980年代後半、宇宙空間での戦略防衛構想を打ち出すとともに、西欧への中距離核兵器の配備計画を推進した。

(8) 大西洋憲章について、文章中の空欄(ア)に当てはまる文として正しいものはどれか。

- a 関係する人民の自由に表明された願望に合致しない、いかなる領土変更も欲しないこと、また、すべての人民の政体を選択する権利を尊重することを宣言した
b 国際的平和および安全を維持するために、平和に対する脅威の防止および除去と侵略行為その他の平和の破壊の鎮圧のため有効な集団的措置をとることを宣言した
c 人種、性、言語、または宗教による差別なく、すべての者のために人権および基本的自由を尊重するよう助長奨励した
d 平和に対する罪、戦争犯罪、人道に対する罪に対しては個人的責任が発生することを宣言した

(9) 国際連合について、正しい説明はどれか。

- a アメリカ合衆国、イギリス、フランスがダンバートン＝オクス会議を開き、国連憲章のもととなる提案をまとめた。
b 経済制裁および軍事的手段によって紛争解決を行う。
c 総会決議は全会一致を原則とする。
d 1950年代に日本と東西ドイツの加盟が実現した。

(10) エジプトについて述べた次の文①と②の正誤の組合せとして、正しいものはどれか。

- ① エジプト総督となったムハンマド＝アリーが、綿花の専売制を導入して富国強兵と殖産興業の政策を進めた。
 - ② ナセル大統領は、イスラエルとの和解に踏み切り、エジプト・イスラエル平和条約を締結した。
- | | | | | | |
|---|-----|-----|---|-----|-----|
| a | ①－正 | ②－正 | b | ①－正 | ②－誤 |
| c | ①－誤 | ②－正 | d | ①－誤 | ②－誤 |

(11) アフリカ諸国の歴史について述べた次の文を古いほうから時代順にならべた場合、3番目にくるのはどれか。

- a エチオピアでアフリカ諸国首脳会議が開催され、アフリカ統一機構（OAU）が発足した。
- b マンデラがアフリカ民族会議（ANC）に参加した。
- c 南ローデシアがジンバブエと改称した。
- d チュニジアがフランスから独立した。

(12) 1960年代のソ連について、正しい説明はどれか。

- a フルシチョフが、日ソ共同宣言を出し、日本と国交を回復した。
- b 人工衛星スプートニク1号の打ち上げに成功した。
- c 中ソ国境で軍事衝突が起きた。
- d 西側との平和共存政策を発表し、コミンフォルムを解散した。

- 3 アブデュルレシト＝イブラヒムの日本旅行記について述べた以下の文章を読み、下線部(1)～(12)に関する問いについて、a～dの選択肢の中から答えを1つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

日露戦争における日本の勝利は、帝国主義列強の植民地支配に苦しむアジア・アフリカのムスリム（イスラーム教徒）⁽¹⁾の間に大きな反響を呼び起こした。各地で日本への関心が高まり、日本関係の著作も多く出版された。アブデュルレシト＝イブラヒム（1857－1944）の日本旅行記もその一つである。著者イブラヒムは西シベリア生まれのタタール人で、彼の同胞たちもまた、ロシアの支配下⁽²⁾にあった。ジャーナリストとしてロシア・ムスリムの民族運動を指導した彼は旅行家でもあり、イスラーム世界をめぐる大旅行を敢行したが、その主たる目的地は日本だった。帰国後著した旅行記が『イスラーム世界―日本におけるイスラームの普及』（1910年刊）である。

イブラヒムは1908年9月ヴォルガ中流域のカザンを立ち、シベリア鉄道⁽³⁾でユーラシア大陸を横断し、ウラジヴォストークから汽船に乗り、1909年2月に日本の敦賀港に到着する。約4ヶ月に及ぶ滞在中、主に東京で伊藤博文、大隈重信らと親交を深めた。その後、下関から釜山に向かい、朝鮮半島を鉄道で北上する。車中で知り合った朝鮮人の若者と日本による統治の是非について議論を交わしたイブラヒムは、中国東北地方⁽⁴⁾に入って奉天、旅順といった日露戦争の激戦地を巡行、その後南下して天津、北京、漢口の中国ムスリムのモスクやマドラサを訪問した。上海から香港⁽⁵⁾を経てシンガポール⁽⁶⁾に上陸し、シーア派のイマーム（導師）⁽⁷⁾を訪ねて「イスラームの統一」について語り合った。さらに海路インドに向かい、カルカッタ（コルカタ）、ボンベイ（ムンバイ）を巡り、インドのムスリムの貧困や教育水準の低さを憂⁽⁸⁾いている⁽⁹⁾。一方で彼らがカリフを敬い、メッカ巡礼鉄道の建設に多額の寄進を行ったことを評価している。その後、インド洋を渡ってアラビア半島に上陸し、旅の仕上げにイスラームの2大聖地メッカ、メディナに立ち寄り、1910年3月オスマン帝国の首都イスタンブルで長大な旅を終えている。

イブラヒムは行く先々で現地のムスリムと交流し、イスラーム世界の現状を憂い、パン＝イスラーム主義を説いた。1918年、革命後のロシアでソヴィエト政権との連携を探るも挫折し⁽¹⁰⁾、トルコへ移った⁽¹¹⁾。1933年に再来日し、代々木モスクのイマームとなり、1944年に東京でその波乱の生涯を終えた。彼の残した旅行記は、20世紀初頭のイスラーム世界の状況と日露戦争後間もない日本の政治的・社会的環境を、ムスリムの目を通して描いた貴重な史料として注目すべき⁽¹²⁾ものであるといえよう。

(1) 下線部(1)について、正しい説明はどれか。

- a エジプトで、イギリスに対しムハンマド＝アリーが武装蜂起したが鎮圧された。
- b ジャワ島で、ジョクジャカルタの王族がイギリスに対して蜂起した。
- c 西アフリカで、サモリ＝トゥーレがフランスに抵抗し国家建設を試みた。
- d ミンダナオ島で、アチェ王国がオランダの支配に抵抗してアチェ戦争が起こった。

(2) キプチャク＝ハン国（ジョチ＝ウルス）から分かれた国家で、18世紀後半にロシアに滅ぼされ、その支配下に置かれた国はどれか。

- a クリミア（クリム）＝ハン国
- b コーカンド＝ハン国
- c ヒヴァ＝ハン国
- d ブハラ＝ハン国

(3) シベリア鉄道の建設を推進したロシアの高官はどれか。

- a ウィッテ
- b ケレンスキー
- c ストルイピン
- d プチャーチン

- (4) 日本の韓国併合前後の日韓関係について、誤っている説明はどれか。
- a 韓国統監伊藤博文はハルビン駅のホームで安重根に暗殺された。
 - b 第1次日韓協約によって韓国の保護国化が実行された。
 - c 朝鮮総督府による強権的な統治政策は武断政治と呼ばれる。
 - d 朝鮮総督府は日本による朝鮮統治の中枢機関であり、初代総督は寺内正毅である。
- (5) この地域と日本との関わりについて、誤っている説明はどれか。
- a 1931年、関東軍が柳条湖で鉄道を爆破し、これを口実に軍事行動を起こした。
 - b 日本は清朝最後の皇帝溥儀を執政とする満洲国を建国させた。
 - c 満洲国は漢、満洲、チベット、蒙古、日本の「五族協和」をスローガンに掲げた。
 - d 満洲事変に対して、中国は国際連盟に訴え、リットン調査団が派遣された。
- (6) 香港について、誤っている説明はどれか。
- a アヘン戦争の講和条約である南京条約で香港島はイギリスに割譲された。
 - b 中国は、イギリスから返還されたマカオと共に香港を特別行政区とした。
 - c 中国は、香港に対して国家安全維持法を施行した。
 - d 鄧小平とサッチャーが返還交渉で合意した。
- (7) シンガポールは当時海峡植民地の一部としてイギリスの支配下にあった。1824年イギリスがこの地を勢力圏とすることに合意する協定を結んだ国はどれか。
- a アメリカ b オランダ c ドイツ d フランス
- (8) シーア派について、誤っている説明はどれか。
- a イラン＝イスラーム革命は、シーア派の高位の法学者ホメイニが指導した。
 - b シーア派の分派伊斯マイル派は、エジプトでファーティマ朝を建国した。
 - c シーア派の最大宗派は十二イマーム派である。
 - d 第4代正統カリフのアリーとその子孫のみが、イスラーム共同体の宗教的・政治的指導者たりえると主張する。
- (9) インドのムスリムについて、正しい説明はどれか。
- a オスマン帝国のカリフを擁護するヒラーファト運動を行った。
 - b 全インド＝ムスリム連盟は、結成当初から反英路線をとり国民会議派と共闘した。
 - c 全インド＝ムスリム連盟は、1929年のラホール大会後、ムスリム国家の分離・独立を目指した。
 - d 西パキスタンは、1971年にバングラデシュ人民共和国として分離・独立した。
- (10) ロシア革命に関連する出来事を古い順に並べたとき3番目にくるのはどれか。
- a 赤軍の設立 b 二月（三月）革命
 - c 「平和に関する布告」の採択 d レーニンの帰国
- (11) ソヴィエト政権を最も早く承認した国はどれか。
- a アメリカ b イギリス c ドイツ d 日本

(12) 20世紀初頭のイスラーム世界について、誤っている説明はどれか。

- a オスマン帝国で青年トルコ革命が起こった。
- b イランで立憲革命が起こった。
- c インドネシアでイスラーム同盟（サレカット＝イスラーム）が結成された。
- d ドイツがモロッコを保護国化した。

- 4 古代中国の政治社会について述べた以下のA～Eの文章を読み、下線部(1)～(12)に関する問いと問(13)について、a～dないしa～fの選択肢の中から答えを1つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

- A 幼少の皇帝の即位があいつぐと、側近の外戚や宦官の勢力が対立をくりかえし、中央政府への信頼が失われた。地方では、豪族が大土地所有をひろげ実力を有し、社会的な指導力を高めた。やがて宗教結社による内乱が起これと、地方勢力が割拠するようになった。その中から華北の魏、四川の蜀、長江中下流域の呉が興って並立した。⁽¹⁾⁽²⁾
- B 南北で政権が分立をくりかえしていた時期、法令の体系化がすすみ、7世紀までには、それにもとづく整然とした統治制度が打ち立てられた。以後、中央政府では三省六部を中心とした分業体制が確立し、地方行政も州県制に整理された。また均田制を受け継いで税制の基本とした。⁽³⁾⁽⁴⁾
- C それまで重んじられてきた黄老の思想に代わって、董仲舒の活躍などで儒学の影響が高まり、国家の学問としての地位を確立してゆく。⁽⁵⁾主要な経典も整理された。⁽⁶⁾やがてその研究・教育も盛んになり、経典の字義解釈を重視する訓詁学が興った。⁽⁷⁾
- D 国内で施行していた郡県制を征服地にも導入し、直接中央から派遣した官吏に地方を治めさせた。また新たな君主の称号である「皇帝」を名乗って、貨幣・度量衡・文字を統一し、富豪を首都に移し、言論・思想を統制するなど、⁽⁸⁾法家の考えにもとづいて、中央集権化をはかった。⁽⁹⁾⁽¹⁰⁾
- E 有力な豪族は各地で勢力を強め、その子弟を中央政府の上級官職に世襲的におくりこみ、全国的な家柄の序列も固定化していった。⁽¹¹⁾こうして形成された名門を貴族と呼ぶ。⁽¹²⁾政治の主導権は貴族に独占されて、皇帝の権力は弱まることが多かった。

(1) この内乱を引き起こした宗教結社または宗教はどれか。

- a 五斗米道 b 上帝会 c 太平道 d 白蓮教

(2) この時代の出来事を述べた次の文のうち、正しいものはどれか。

- a 華北に移住を進めていた遊牧諸民族が蜂起して、洛陽を陥れた。
b 呉は現在の南京にあたる地に、首都の建業を置いた。
c 朝鮮半島にも政権の力が伸びて、新たに楽浪郡が置かれた。
d 仏教が流行して、雲崗の石窟寺院が作られた。

(3) 三省六部について述べた次の文①と②の正誤の組み合わせとして、正しいものはどれか。

- ① 三省とは尚書省・門下省・中書省で構成され、政務の執行機関は中書省である。
② 六部のうち、財務を所轄するのは戸部である。
- a ①－正 ②－正 b ①－正 ②－誤
c ①－誤 ②－正 d ①－誤 ②－誤

- (4) 均田制について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。
- a 隋の文帝の時代に開始された。
 - b 均田制にもとづき、租庸調が徴収された。
 - c 均田制にもとづき、府兵制が運用された。
 - d 成年男性に対する土地の均等配分を原則とした。
- (5) この当時の君主はどれか。
- a 後漢の光武帝
 - b 西晋の武帝
 - c 前漢の武帝
 - d 梁の武帝
- (6) 当時の儒教で重んじられた「五経」として、正しいものはどれか。
- a 易経・詩経・書経・大学・春秋
 - b 易経・詩経・書経・中庸・春秋
 - c 易経・詩経・書経・礼記・春秋
 - d 易経・詩経・書経・論語・春秋
- (7) 以後7世紀までに、この訓詁学を発展させた学者として、正しい組み合わせはどれか。
- a 顧炎武－黄宗羲
 - b 周敦頤－程頤
 - c 鄭玄－孔穎達
 - d 班固－張衡
- (8) 当時、征服された各国のうち、誤っている国名はどれか。
- a 燕
 - b 晋
 - c 楚
 - d 趙
- (9) この出来事について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。
- a 医薬に関する書物は対象外とされた。
 - b 紀元前2世紀に行われた。
 - c 商鞅の進言で始まった。
 - d 文字の獄と呼ばれた。
- (10) 法家について述べた次の文①と②の正誤の組み合わせとして、正しいものはどれか。
- ① 儒家である荀子の門下から出た李斯が、法家思想を大成して、現在も残る著書を著した。
 - ② 徳ではなく成文法による統治を主張した。
- a ①－正 ②－正
 - b ①－正 ②－誤
 - c ①－誤 ②－正
 - d ①－誤 ②－誤
- (11) こうした形勢を導いた制度について、誤っている説明はどれか。
- a この制度は隋の時代に廃止された。
 - b 人材を9等級に分けて推薦した。
 - c 殿試という試験によって官吏を登用した。
 - d 地方に中正官をおいて人材を推薦した。